

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

北海道公衆衛生学雑誌 (2018.3) 31(2):123-130.

北海道の保健師の災害看護に対する意欲と役割意識の現状と課題

合田 奈央, 瀬崎 百合愛, 武田 里那, 藤井 智子

北海道の保健師の災害看護に対する意欲と役割意識の現状と課題

合田 奈央¹⁾, 瀬崎百合愛²⁾, 武田 里那³⁾, 藤井 智子⁴⁾

要 旨

近年, 日本では相次いで自然災害が発生し, 災害看護における保健師の役割は大きくなっている. 本研究では, 北海道の保健師の災害看護に対する意欲や役割意識の現状と課題を明らかにすることを目的に, 保健師152名に質問紙調査を行った. 「機会があれば災害派遣に行きたいと思うか」に対し「とても思う」「思う」の『意欲の高い群』は計54.4%で, その理由では, 専門職としての役割であるが最も多かった. 「あまり思わない」「思わない」の『意欲の低い群』は計45.5%で, その理由では, 知識不足や日常業務優先, 自信の無さが挙げられた. 2群間では「災害派遣」や「災害看護の研修」の経験に関連があった. 災害看護における保健師の役割意識では被災者の健康管理や健康課題の把握に関する項目が高く, 日常業務と共通する視点が多かった. よって, 今後保健師が災害看護活動を実践するにあたり, 学習の機会を設けることや日常業務から備えることの重要性が示唆された.

キーワード: 災害看護, 災害, 保健師, 意欲

緒 言

日本の国土面積は世界の1/400でありながら, マグニチュード6以上の地震の約1/5が日本で起きている. 地震以外にも, 台風, 高潮, 豪雨, 豪雪, 津波, 火山噴火などの自然災害がおきやすい¹⁾. 特に北海道は地震や雪害などが多い地域である. 先行研究より, 看護職の災害看護への意欲について, 村椿らは, 看護師の85.2%は災

害発生時の患者対応に関する学習意欲があるが, 79.9%は患者対応の自信はなかったとしている²⁾. また, 青木らの2006年に行われた調査によると, 保健師は災害看護に対する自信がないと答えた人が84.4%と多く, 復興期は自分たちの役割ではないとの認識傾向にあった³⁾. それらの研究の後, 日本では東日本大震災や熊本地震など相次いで自然災害が発生し, 保健師らが様々な活動報告を出しており, 役割意識は変化してきていると推測される. しかし, 昨今の保健師の災害看護における役割意識等についての先行研究は見当たらなかった. そこで本研究では, 現在の北海道の保健師の災害看護に対する意欲と役割意識についての現状と課題を明らかにし, 今後の保健師の災害看護活動への示唆を得ることを目的とした.

対象と方法

1. 対象:

北海道の保健所及び市町村に勤務する保健師約150名を対象とした. 対象施設は保健所30施設, 市町村179施設から第三次医療圏を網羅するように考慮し, 保健所5施設, 市町村17施設の計22施設を機縁法により抽出して依頼し, 職位や経験年数を問わずに配布した.

2. データ収集方法:

無記名自記式の質問紙調査を行った. 対象施設に電話で調査の趣旨を説明し, 同意が得られた施設に説明文とアンケート用紙, 返信用封筒を郵送にて配付した. 回収は対象者からの直接郵送による返送とした.

3. 調査内容:

基本属性, 自分の地域での被災体験, 災害看護・災害派遣・災害に関する研修の経験の有無, 機会があれば災害派遣に行ってみたいと思うか(4件法)とその理由, 被災時に保健師の役割を果たすうえで気がかりなこと, 災害看護における保健師の役割意識(4件法)について調査した. 災害派遣に行ってみたいと思うかの理由8項目と, 行ってみたくない理由7項目については, 先行研究を参考⁴⁾に抽出した. また, 役割の重要性の項目については, 災害看護の活動報告書や先行研究^{5)~10)}

1) 札幌市北区役所

2) 上富良野町役場

3) 釧路市役所

4) 旭川医科大学

連絡先: 藤井 智子

〒078-8510

旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

E-mail: koitomo@asahikawa-med.ac.jp

を参考にカテゴリー化を行い、項目を抽出した。

4. 分析方法：

全ての項目を記述統計にて算出し、災害看護への意欲を「機会があれば災害派遣に行きたいと思うか」という質問を指標に分析した。「とても思う」、「思う」を『意欲の高い群』、「あまり思わない」、「思わない」を『意欲の低い群』とし2群間で年齢、経験年数、所属組織、職場の保健師数、勤務地で避難を必要とした自然災害の発生の有無とその種類、自分の地域での災害看護の経験の有無、災害派遣の経験の有無、災害看護の研修を受けた経験の有無と研修場所、災害看護マニュアルを読んだことがあるかについて χ^2 検定を行った。さらに、これらの項目を独立変数、災害の意欲を従属変数とし、多重ロジスティック回帰分析を行った。分析には統計ソフトSPSSバージョン22を使用し、有意水準は5%とした。

5. 倫理的配慮：

研究の趣旨、所要時間、研究結果は個人が特定できないように処理し不利益が生じないことを書面で説明した。また、研究への参加は自由意思とし、アンケートの記入・返送をもって同意を得た保健師を対象とした。本研究は、旭川医科大学倫理審査委員会に承認を得て実施した（承認番号16067、承認日平成28年8月4日）。

なお、本研究に関して開示すべき利益相反はない。

6. 用語の定義：

本研究ではそれぞれの用語を以下のように定義する。

1) 意欲：災害看護の実践に前向きな気持ちであるという意志。本研究では機会があれば災害派遣に行きたいと思うかという質問で測定した。

2) 役割意識：災害看護において保健師の役割をどのように考えているかという認識。

3) 自然災害：暴風・竜巻、豪雨、豪雪、寒冷・日照り、洪水、高波・高潮、地震、津波、噴火、土砂崩れその他の異常な自然現象により、避難勧告、避難指示、警戒区域の設定も含め被災した地域の住民が避難を要する規模の災害¹¹⁾。

4) 災害看護：国の内外において、災害により被災した人々の生命、健康生活への被害を最小限にとどめるために、災害に関する看護独自の知識や技術、他の専門分野の人々と協働して、災害サイクルすべてに関わる看護活動を展開すること。

5) 災害サイクル：急性期、亜急性期、復旧・復興期の全過程。急性期は災害発生直後～48時間、亜急性期は急性期～2、3週間、復旧・復興期は生活環境や人々の生活が発災前と同等の状態に回復するまでとする¹²⁾。

結果

保健所5施設、市町村17施設の計22施設に依頼し、全てから同意が得られた（協力率100%）。調査票は152名に配付し、回収数は112名（回収率73.7%）、分析対象は112名（有効回答率73.7%）であった。

1. 対象者の概要

1) 基本属性（表1）

年齢は各年代からほぼ均等であった。役職は、役職なしが4割と役職者の方が多かった。職場は、市町村72.3%、保健所26.8%であり、北海道で働く保健師の総数の割合とほぼ同じだった。職場の保健師数は、6～10人が65名（58.0%）と最多割合だった。

2) 災害看護の経験と認識（表2）

勤務地で避難の必要な自然災害が起きたことのある者は78名（69.6%）で、津波と大雨・豪雨が最多であった。今後勤務地で災害が起こると思う者は「とても思う」、「思う」計97名（86.7%）であった。

2. 災害看護への意欲（表3）

1) 災害派遣に行きたいと思うか

もし災害派遣の機会があれば行ってみたいと思うかについて、「とても思う」、「思う」と回答した『意欲の高い群』が61名（54.4%）、「あまり思わない」、「思わない」と回答した『意欲の低い群』が51名（45.5%）であった。

2) 災害派遣への意欲とその理由

『意欲の高い群』の理由は、「専門職としての役割であ

表1 基本属性

	n=112	
	人	%
年齢		
20-29才	23	20.5
30-39才	32	28.6
40-49才	31	27.7
50才以上	26	23.2
保健師就業年数		
新任期(1-5年目)	35	31.3
中堅期(6-19年目)	38	33.9
管理期(20年以上)	39	34.8
役職		
有り	63	56.3
無し	48	42.9
その他	1	0.9
職場		
市町村	81	72.3
保健所	30	26.8
その他	1	0.9
職場の保健師数		
1-5人	26	23.2
6-10人	65	58.0
11-15人	19	17.0
無回答	2	1.8

表2 災害の経験と認識 n=112

	人	%
地域での災害発生の有無		
有り	78	69.6
無し	34	30.4
自分の地域で経験した災害看護の種類 (複数回答) n=78		
津波	23	29.5
大雨・豪雨	23	29.5
地震	21	26.9
豪雪	14	17.9
噴火	8	10.3
台風	6	7.7
その他	24	30.8
自分の地域で災害看護を行った経験		
有り	23	20.5
無し	86	76.8
無回答	3	2.7
災害派遣の経験の有無		
有り	13	11.6
無し	98	87.5
無回答	1	0.9
災害看護の研修の経験の有無		
有り	36	32.1
無し	75	67.0
無回答	1	0.9
災害マニュアルを読んだ経験		
有り	98	87.5
無し	14	12.5
あなたの地域で今後災害が起こると思うか		
とても思う	35	31.3
思う	62	55.4
あまり思わない	13	11.6
思わない	1	0.9
無回答	1	0.9

る」が54名(88.5%)で最も高く、「勉強になる」が18名(29.5%)、「役に立ちたい」が17名(27.9%)で上位であった。次に『意欲の低い群』の理由は、「災害看護の知識不足」が29名(56.9%)と最も多く、「日常業務優先」が20名(39.2%)、「自信がない」が18名(35.3%)であった。「その他」は16名(31.4%)で、その理由としては、「子供が小さい」や「家庭での役割」、「自分の健康状態」に関する事等が挙げられた。

3) 災害派遣への意欲と関連する要因 (表4)

災害派遣への意欲との関連をみると、「職場」と「災害派遣の経験」、「災害看護の研修経験」の3項目に有意な関連がみられた。「経験年数」、「役職」、「職場の保健師数」、「災害経験」では有意差はみられなかった。職場は市町村よりも保健所、災害派遣や研修は経験がある者ほど、災害派遣への意欲が高かった。

表3 災害看護への意欲とその理由 n=112

もし機会があれば災害派遣に行きたいと思うか	人	%
とても思う	11	9.8
思う	50	44.6
計	61	54.4
あまり思わない	41	36.6
思わない	10	8.9
計	51	45.5
とても思う・思うと回答した理由 (複数回答可)		n=61
専門職としての役割	54	88.5
勉強になる	18	29.5
人の役に立ちたい	17	27.9
災害看護に興味がある	8	13.1
自分や知人に被災経験がある	7	11.5
災害看護の経験を活かしたい	3	4.9
災害看護の知識を活かしたい	1	1.6
その他	5	8.2
あまり思わない・思わないと回答した理由 (複数回答可)		n=51
災害看護に関する知識不足がある	29	56.9
日常業務優先	20	39.2
役割を果たす自信がない	18	35.3
保健活動の経験が不足している	15	29.4
被災地に赴く不安がある	9	17.7
自分以外に適任者がいる	6	11.8
その他	16	31.4

表4 災害派遣への意欲の関連

項目	意欲の高い群 n=61		意欲低い群 n=51		P値	
	人数	%	人数	%		
就職年数	新任期	20	57.1	15	42.9	0.874
	中堅期	21	55.3	17	44.7	
	管理期	20	51.3	19	48.7	
役職	有り	35	55.6	28	44.4	0.884
	無し	26	54.2	22	47.8	
職場	市町村	38	46.9	43	53.1	0.013
	保健所	22	73.3	8	26.7	
職場の保健師数	1-5人	17	65.4	9	34.6	0.252
	6-10人	31	48.4	33	51.6	
	11-15人	12	63.2	7	36.8	
災害経験	有り	42	53.8	36	46.2	0.842
	無し	19	55.9	15	44.1	
災害派遣の経験	有り	11	84.6	2	15.4	0.022
	無し	50	51.0	48	49.0	
災害看護の研修	有り	29	80.6	7	19.4	0.001
	無し	32	42.7	43	57.3	

4) 多重ロジスティック回帰分析の結果 (表5)

災害派遣への意欲を従属変数とし、単変量解析(χ²検定)を行った項目すべてを説明変数として多重ロジスティック回帰分析をした結果、「災害派遣経験」OR=10.03(95%CI:1.37-73.45)と「災害看護の研修経験」OR=6.78

表5 災害派遣の意欲に関連するロジスティック回帰分析

		n	オッズ比 (OR)	95%信頼区間 (98%CI)		P値
経験年数	新任期	35				0.387
	中堅期	38	0.552	0.153	— 1.993	0.364
	管理期	39	0.353	0.08	— 1.555	0.169
役職	なし	48	1.000			
	あり	63	0.635	0.202	— 1.991	0.436
職場	市町村	81	1.000			
	保健所	30	1.781	0.331	— 9.587	0.502
職場の保健師数	1-5人	26	1.000			0.749
	6-10人	64	0.673	0.237	— 1.914	0.458
	11-15人	19	0.854	0.166	— 4.396	0.850
災害経験	なし	34	1.000			
	あり	78	1.632	0.518	— 5.145	0.403
災害派遣	なし	98	1.000			
	あり	13	10.034	1.371	— 73.456	0.023
災害看護の研修	なし	75	1.000			
	あり	36	6.78	2.042	— 22.51	0.002

表6 災害看護を行う上で気がかりなこと

	人	%
気がかりなこと n=111		
とてもある	33	29.5
ある	71	63.4
あまりない	4	3.6
ない	3	2.7
無回答	1	0.9
気がかりの内容 (複数回答) n=108		
支援の技術不足	74	67.9
災害に関する知識不足	69	63.3
自分の体力	45	41.3
重要他者の安全性・健康状態	42	38.5
自分の安全性	35	32.1
重要他者との連絡方法	23	21.1
所属機関との連絡方法	23	21.1
交通手段	20	18.3
その他	11	10.1

(95%CI2.04-22.51) の2項目で有意な関連がみられた。

3. 災害看護を行う上で気がかりなこと (表6)

災害看護を行う上で気がかりなことがあるかについて、「ない」と回答したものは3名(2.7%)に留まった。気がかりなことが一つ以上あるものは108名(96.4%)で、1人当たり3.14個の気がかりなことがあった。気がかりの内容として多かったのは、「支援の技術不足」が74名(67.9%)、「災害に関する知識不足」が69名(63.3%)、「自分の体力」が45名(41.3%)、「重要他者の安全性・健康状態」が42名(38.5%)、「自分の安全性」が35名(32.1%)であった。

4. 災害看護の役割意識 (図1, 図2)

保健師が役割を果たすべきだとする災害サイクルの優

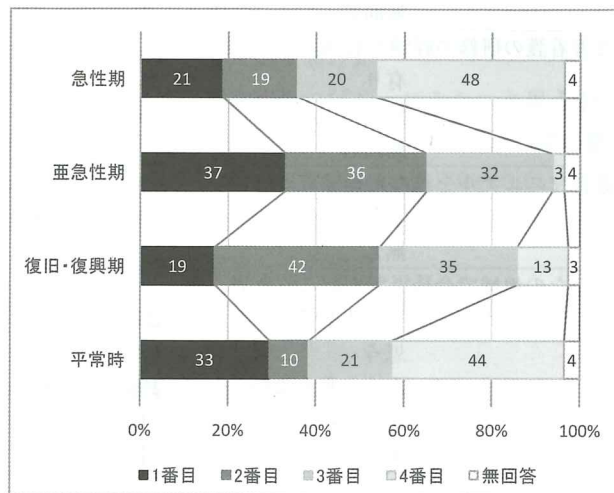


図1 保健師が役割を果たすべき災害サイクルの優先順位の認識

先順位について、1番目と2番目の合計で多い順に、亜急性期73名(65.2%)、復旧・復興期61名(54.5%)、平常時43名(38.4%)、急性期40名(35.7%)の順となった。次に、保健師の役割の重要性について、「要配慮者の健康管理」「避難所生活者の健康管理」、「自宅生活者、車中泊者、健康管理」、「早急に対応が必要な健康課題の把握」が「とても重要である」と回答した者は約9割と多かった。一方で、「必要な物資の調整」、「急性期の救命救護活動」、「住民参加での復興活動支援(まちづくり)」は、「あまり重要ではない」が2、3割であった。

自由記載では、災害看護で重要だと思う保健師の役割について「平常時からの準備が大切だが日常業務に追われ取り組めていないことが課題である」、「定期的に学習する機会を設けることの重要性」等が述べられた。

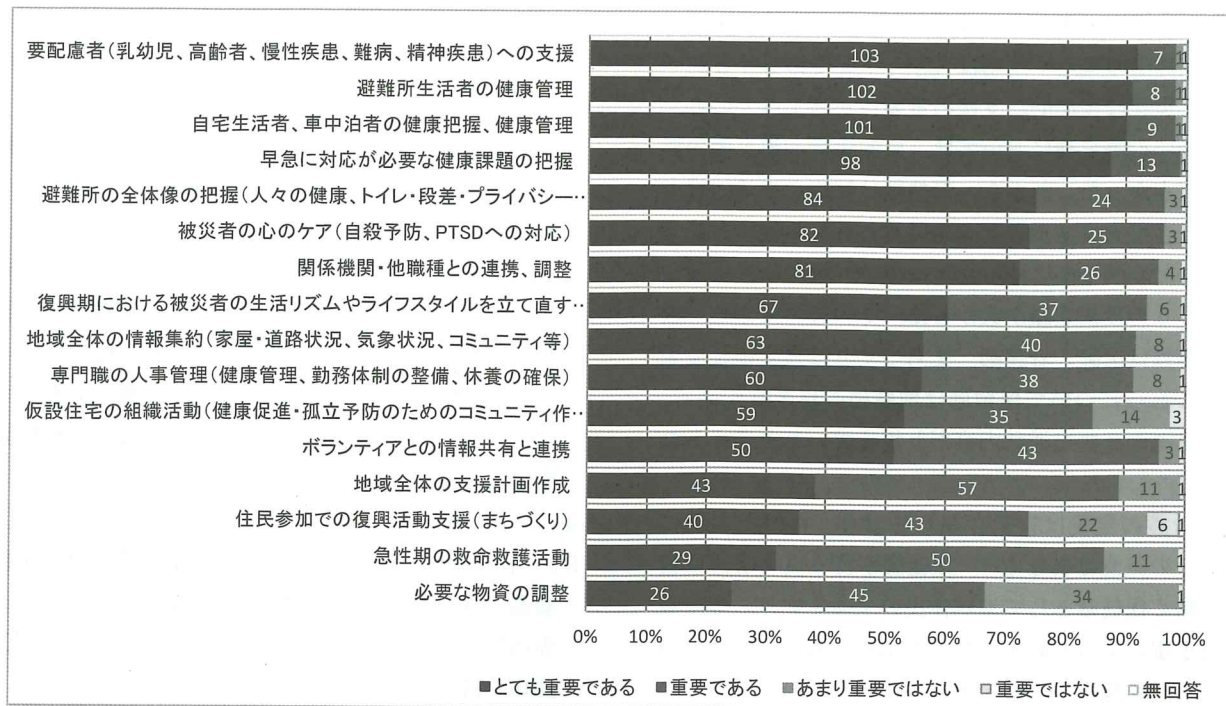


図2 保健師の災害看護における役割の重要性

考 察

1. 災害看護に対する意欲と関連要因

過去に災害が起きた地域に住んだ者は約7割であるのに対し、今後自分の地域で災害が起ころうと考えている者は約9割で、災害マニュアルを読んでいた者も約9割であった。過去に災害の経験が無くてもほとんどの保健師が災害が起きる危険性を感じており、災害発生時に備えて準備していることがわかった。また、『意欲の高い群』の理由でも、「専門職としての役割」が約9割と非常に高く保健師は専門職としてやるべきことという意識をもっているといえる。しかし、自分の地域で災害が起こるかもしれないという思いや専門職としての役割を認識しながらも半数の保健師は災害派遣へは消極的であった。その背景として、『意欲の低い群』の理由の上位に災害看護の知識不足や保健活動の経験不足等が挙げられ自信の無さがうかがわれた。

災害看護に関する意欲の関連要因としては、「災害派遣の経験」と「災害看護の研修」であり、災害派遣の経験をすること、研修を通して災害看護を学ぶことが意欲につながるといえる。また、気がかりの内容の上位に支援技術や知識不足が挙げられており、体力や安全にも心配な気持ちを抱く保健師が多かった。石川らは、基礎教育において講義を聴くだけでなくフィールドワークや災害図上訓練を取り入れ、体験型の授業科目として設定したことが災害看護活動のイメージ化に有効だと述べている¹³⁾。これらのことから、災害看護に関する知識や技術を習得するための学習の場や体験者の報告を聞く機会な

どを基礎教育及び現任教育に設けることが大切と考える。

また、意欲の低い群の理由のなかには、自信に関することに加え日常業務の優先や家庭での役割等も挙げられていた。年齢と意欲に有意差がみられなかったことから、年齢が若い時は自信の無さが影響しているが、年齢が上がると職場の体制や家族の状況に影響を受けていると推測される。子育て、介護の時期に該当する者には、災害派遣に前向きであっても派遣に行くことが難しい立場や環境にある可能性が考えられる。さらに、職場の保健師数と意欲の有意差もみられなかったことから、職場の保健師数が多いことが派遣の行きやすさに直結しないことが分かった。保健師数が多い職場では、自分以外に適任者がいると考える者がいることや、分散配置による難しさの可能性も考えられる。

2. 災害看護の役割意識の現状と課題

保健師が役割を果たすべき重要な時期について、青木らによると復興期よりも急性期の方が高く、復興期に役割はないという傾向にあった¹⁴⁾。しかし本研究では、急性期だけではなく亜急性期や復旧・復興期も重要な時期であると考えられる者が多く、役割意識に変化がみられた。2006年以降の10年間に東日本大震災や熊本地震等の大規模な自然災害が発生し、長期にわたる保健師の支援の重要性が浸透したと考えられる。野口らによると、保健師は、震災前から日頃の活動を通して住民の文化や生活を把握している存在でもあることから、生活再建や健康生活の取り戻しのためにじっくりと住民と共に歩まなけれ

ばならず、復旧・復興には日頃から住民と直接かかわっている保健師の果たす役割は大きく重要である¹⁵⁾と述べており、現在は長期的な支援の重要性が高まっている。

保健師の役割意識においては、要配慮者や被災者の健康管理が高かったことから、保健師は健康や生活の視点から被災者を支援することを専門職としての役割と捉えていることが明らかになった。一方で、救命救護活動やまちづくりの役割意識が低かった。その理由として、救命救護活動は医師・看護師、まちづくりは社会福祉協議会等、これらについて保健師は他職種の専門性が高く、多職種連携が必要な活動内容だと捉えていると考えられる。

災害看護の定義は複数存在しており、機関や組織によってその概念は異なる¹⁶⁾。保健師が行う災害看護は自治体に働く保健師として地域住民の生命を守り、健康被害を最小限にするための活動¹⁷⁾が求められる。本研究の結果から、環境を含めた公衆衛生の視点を軸に、時間の経過とともに変化する健康問題と生活支援をしていく役割があるといえ、そのような認識が浸透しているといえる。

本研究より災害看護の学習の場の重要性が明らかとなったが、日常業務に追われ学ぶ機会が少ないという現状があった。草野らは、被災した自治体の保健師や支援活動を行った保健師が、その経験から防災・減災のために必要と考えた平時からの保健師活動は、その多くが特別なことではなく、保健師の専門性そのものであったと述べている¹⁸⁾。本研究においても役割意識は日常業務に共通していることが多く、災害時を想定しながら平時の活動に取り組むことも重要である。

3. 本研究の限界

本研究では、意欲の指標を「機会があれば災害派遣に行きたいかどうか」で測定したが、災害派遣は派遣を要請されたときに対応できるかどうかであり、意欲をみるにはその妥当性・信頼性に課題が残る。保健師は所属する組織や家庭の一員として行動を判断する必要があり、職場内の保健師が災害派遣に行けるよう体制を整えることも協力の一部である。よって、職場の保健師を派遣に行かせたいと思うかなど職場の体制も含め災害看護への意欲を明らかにすることが今後必要であると考えられる。

謝 辞

本研究の実施にあたり、ご協力いただきました北海道の保健師の皆様、アンケートへの寛大な受け入れと丁寧な回答をして下さり心より感謝申し上げます。なお、本研究は平成28年度旭川医科大学医学部看護学科看護研究論文の内容に加筆修正をしたものである。また、本論文

の一部を第69回北海道公衆衛生学会で発表した。

文 献

- 1) 社会実情データ実録. 世界各国の地震災害(地震回数・死者数). <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/4380.html> (2014年12月11日)
- 2) 村椿瑠美子, 長谷川知美, 宮本恵子, 他. 災害発生時の患者対応に関する看護師の自信と知識・学習経験・学習意欲の関連性. 看護管理 2009; 40: 174-176.
- 3) 青木実枝, 鎌田美千子, 川村良子, 他. 災害時ヘルスケアニーズに対する保健師の役割意識. 山形保健医療研究 2006; 9巻: 1-10.
- 4) 前掲書2)
- 5) 山崎達枝. 災害各期における看護活動. 酒井明子, 菊池志津子. 看護学テキスト NiCE 災害看護 看護の専門知識を統合して実践につなげる. 南江堂, 東京. 2016: 117-126.
- 6) 黒田久美子, 福田峰子, 内田明子, 他. 平成26年度千葉大学看護学部公開講座「災害における看護のはたらき」(専門職向け講座) 今こそ、災害に備えた看護の力の発揮～過去から学び未来に備える～. 千葉大学大学院研究紀要 2015; 37: 89-93.
- 7) 伊藤淑子. 被災地における災害弱者の生活とケア- 虻田町保健師らによる高齢者への援助を中心に. 開発論集 2003; 71: 83-105.
- 8) 藤井誠, 橋本結花. 地域災害時における市町村保健師の役割と特徴と課題. 日本災害看護学会誌 2007; 8: 10-20.
- 9) 田口美喜子, 蘇武彩加, 三浦まゆみ, 他. 被災地で支援活動を行う保健師の思いと活動の実際 岩手・宮城内陸地震の体験から. 日本災害看護学会誌 2014; 16: 36-45.
- 10) 奥田博子. 自然災害時における保健師の役割. 保健医療科学 2008; 57: 213-219.
- 11) 酒井明子. 災害看護の定義. 酒井明子, 長田恵子, 三澤寿美. 看護の統合と実践③災害看護. メディカ出版, 東京. 2017: 14-15.
- 12) 前掲書10)
- 13) 石川麻衣, 山田洋子, 武藤紀子, 他. 学士課程自由選択科目における災害地域看護教育方法の検討. 千葉大学看護学部紀要 2006; 28: 51-58.
- 14) 前掲書3)
- 15) 野口裕子, 坪倉繁美. 地震発生後市町村保健師が住民の反応をとらえて行う二次的健康被害を予防するための活動. 日本災害看護学会誌 2016; 17: 64-65.
- 16) 前掲書11)

- 17) 宇田優子. 第14章健康危機管理. 金子仁子. 行政看護学. 講談社, 東京, 2017; 234-235.
- 18) 草野恵美子, 小出恵子, 野村美千江. 津波災害を経験した住民・行政職員と外部支援保健師が必要と考え

た地域における平時の防災・減災教育. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2012: 485.

・実際に調査で使用した調査票を付表 (Appendix) する.

「北海道の保健師の災害看護に対する意欲と役割意識についての実態調査」
に関するアンケート調査質問用紙

1. あなた自身やあなたの地域についてご回答下さい。
- ① 現在の年齢 (歳) 保健師としての経験年数 (年) 役職 ()
現在の職場 (・市町村 ・保健所) 職場全体の保健師数 (人)
- ② あなたの地域で自然災害が起きたことはありますか。
1) はい 2) いいえ
- ③ ②で「1」はいと答えた方にお聞きします。そのうち避難(避難勧告、避難指示、警戒区域の設定のいずれの場合も含む)を必要とした自然災害の種類とおおよその頻度について教えてください。

1) 豪雪 (回/ 年程度) 2) 地震 (回/ 年程度) 3) 津波 (回/ 年程度)
4) 噴火 (回/ 年程度) 5) その他 () (回/ 年程度)

- ④ 自分の地域で災害看護を行った経験はありますか。
1) はい 2) いいえ
- ⑤ 災害派遣ご行った経験はありますか。
1) はい 2) いいえ
- ⑥ 災害看護の研修を受けた経験はありますか。
1) はい ⇒ どこで (・職場外 ・職場内) 2) いいえ
- ⑦ 地域防災計画、災害予防、災害応急対策に関する災害マニュアルを読んだことがありますか。
1) はい 2) いいえ

2. 災害看護に対する意欲についてご回答下さい。
- ① もし災害派遣の機会があれば行ってみたいと思いますか。
1) とても思う 2) 思う 3) あまり思わない 4) 思わない
↳ ②-1へ
- ②-1 その理由として当てはまるものを○をつけて下さい。(複数回答可)
1) 人の役に立ちたいから 2) 専門職としての役割だから 3) 災害看護に興味があるから
4) 勉強になるから 5) 災害看護の経験を活かしたいから 6) 災害看護の知識を活かしたいから
7) 自分や知人に被災経験があるから 8) その他 ()
- ②-2 その理由として当てはまるものを○をつけて下さい。(複数回答可)
1) 役割を果たす自信がないから 2) 被災地に赴く不安があるから 3) 自分以外に適任者がいるから
4) 保健活動の経験が不足しているから 5) 災害看護に関する知識不足があるから
6) 日常業務の優先のため 7) その他 ()
- ③ あなたの地域において、今後、自然災害が起きると思いますか。
1) とても思う 2) 思う 3) あまり思わない 4) 思わない
- ④ 自らが被災した際、保健師の役割を果たすうえで気がかりなことはありますか。
1) とてもある 2) ある 3) あまりない 4) ない
↳ ④-1へ

- ④-1 気がかりと思う内容を○をつけて下さい。(複数回答可)
1) 災害に関する知識不足 2) 支援の技術不足 3) 自分の安全性 4) 自分の体力
5) 重要他者の安全性・健康状態 6) 重要他者との連絡方法 7) 所属機関との連絡方法
8) 交通手段 9) その他 ()

3. 保健師の災害看護の役割についてご回答下さい。

- ① 災害看護において保健師が最も役割を果たすべきだと思う時期について、優先順に1~4で番号を付けて下さい。
・ () 急性期 (災害発生直後~48時間)
・ () 亜急性期 (~2,3週間)
・ () 復旧・復興期 (~生活環境や人々の生活が発災前と同等の状態に回復するまで)
・ () 平時時

- ② 以下の項目について、保健師の災害看護における役割の重要性を、4段階で当てはまるものを○を付けて下さい。
(1) とても重要である 2 重要である 3 あまり重要ではない 4 重要ではない

	1	2	3	4
余命の確保				
計画づくり				
体制づくり				
健康者の健康管理				
* エンバロメント				

地域全体の情報集約 (家屋・道路状況、気象状況、コミュニティ等)
避難所の全体的把握 (人々の健康、トイレ・段差・プライバシー等の環境)
早急に対応が必要な健康課題の把握
地域全体の支援計画作成
関係機関・他職種との連携、調整
専門職の人事管理 (健康増進、勤務体制の整備、休業の確保等)
ボランティアとの情報共有と連携
必要な物資の調整
急性期の救命救急活動
避難所生活者の健康管理
自宅生活者、車中泊者の健康把握、健康管理
要配慮者 (乳幼児、高齢者、慢性疾患、難病、精神疾患) への支援
復興期における被災者の生活リズムやライフスタイルを立て直す支援
被災者の心のケア (自殺予防、PTSD への対応)
仮設住宅の組織活動 (健康促進・孤立予防のためのコミュニティ作り等)
住民参加での復興活動支援 (まちづくり)

*エンバロメント：災害によって失われた能力、気力、自信を再び獲得していきけるように援助すること。
③ あなたが考える災害看護で重要だと思う保健師の役割がありましたら自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。
最後まで回答して下さい、ありがとうございました。